

日時：2020年10月18日(日) 9:00-12:00

場所：西伊豆町立賀茂小学校

参加者：39名（関係者含む）

主催、共催：西伊豆町社会福祉協議会・西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会

後援：西伊豆町

協力：震災がつなぐ全国ネットワーク、災害復興支援ボランティアチームしずおか茶の国会議

※本企画は西伊豆町社会福祉協議会・西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会共催の2日間にわたる

避難所運営研修会の1企画として開催。対象は区長・民生児童委員・災害ボランティアコーディネーター等。

内容：

テーマ：避難所での要配慮者支援

講師：浦野愛(震災がつなぐ全国ネットワーク事業担当・認定NPO法人レスキューストックヤード常務理事)

「新型コロナウイルス感染症禍での避難所運営の知恵袋」と題し、コロナ禍での被災地の現状、感染予防対策、避難や避難所のあり方と要配慮者支援について講演・ワークショップを行った。

1) 令和2年7月豪雨で被災した熊本の現在の状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況下において感染対策の観点からこれまでの災害と異なり外部からボランティアなどの支援者が入りにくい状況である、その影響もあり過去の災害被災地と比較し1ヶ月ほどの復旧・復興の遅れが見られる。そのような状況において住民自身が積極的に避難所運営に関わることで避難所の環境が改善されている事例がある事を紹介した。

2) 災害関連死について

過去の災害で報告されているデータによると熊本地震においては亡くなった方の8割が震災関連死であり、うち8割が70歳以上、9割が既往症のある方であった。また震災関連死の発生場所として東日本大震災では4割、熊本地震では2割が自宅、親類宅で避難生活を送っていた。



神戸協同病院上田耕蔵院長は「震災・災害関連死は防ぎうる死」と話されており、障害や持病がある方ほど周囲に遠慮し我慢をしまいやすい、だからこそ周囲がちょっとした変化に気付き必要な支援に

繋いだり、課題解決の為に工夫を一緒に考えたりする事で震災関連死を防ぐことに繋がる。

3) コロナ禍での避難の考え方

感染予防の観点から分散避難が必要である事、どのような場所が避難先となりうるか、過去の被災地での事例を元にお話しし、車中泊等避難生活で起こりやすいエコノミークラス症候群対策として予防体操を紹介、参加者と共に実施した。



避難所外の避難の方々に物資や情報が届きにくい状況が過去の被災地で起きていることから自主・在宅避難者支援拠点が必要である。

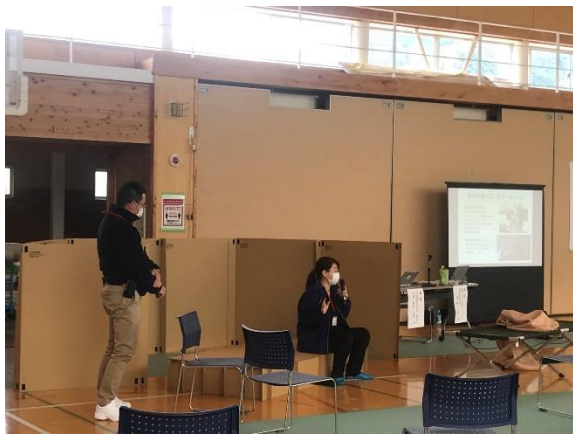
4) 避難生活における感染症予防対策

JVOAD・避難生活改善に関する専門委員会制作の「新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック」の紹介や、避難時に各自が持っていくと良いもの、避難生活における感染対策のポイントをまとめて紹介。最大の感染対処法として少人数・個別空間の確保が大切だと伝えた。

5) 避難所ってどんなところ—要配慮者について

避難所で実際に起こった困難を感じたシチュエーションを紹介。トイレの問題（不衛生な状態が続くと感染症の誘発に繋がる・使用しにくい事で使用を控える行動をとり体調の悪化に繋がる為命に直結する問題）、寝床、食事の問題をお話した。またそのような状況が続いた場合の事例として熊本地震の再現ビデオを上映した。

被災による生活環境の物理的悪化や遠慮・気兼ね、することが無く動かないという状況が続くと持病の悪化や気持ちの落ち込みなどリスクが高い状況に陥ってしまう。変化に気付き、状況を改善する為にできること・必要なサポートがある場合の繋ぎ先を知っている人が地域に増えることで要配慮者がリスクが高い状態に陥るのを防いでいける。また動ける住民には役割を持って積極的に避難所運営に関わってもらうことが、避難所の環境改善・個々人のリスク軽減にも繋がることをお話した。



その上で避難所に受付をつくる、健康チェックリストの導入、福祉避難スペースを設ける、十分に物資が無い時期に避難所にあるものを使ってできる環境改善（足が悪い方にイスを優先して使ってもらう）等具体的にできる対策を伝えた。

6) 災害関連死防止ポスターを使ったワーク



「食べものがそのまま残っている」「一人でぼうっとして動かない」の2つの事例を取り上げ、①その事例をそのままにするとどんな問題が起こるか②その問題を誰がどのように解決できるか、グループワークを実施、全体であがったアイデアを共有した。

参加者からは、「食べものがそのまま残っている」ケースの場合「アレルギーの有無や食べられない原因を探る声かけができる」「皆で一緒に食事ができるスペースを設けてはどうか」などたくさんのアイデアが挙がった。最後に「知っていれば誰でもできることがたくさんある、動ける人が動く参加型の避難所運営を目指していきましょう」のメッセージを伝え講座を締めくくった。



□参加者の感想（アンケートより）

- ・実際に避難所での具体例からの説明でとてもわかりやすかった。
- ・自分たちで運営していく避難所、最初は大変かと思ったが、一人一人のちょっとした動き声掛けでできることがわかり、とても参考になった。
- ・目からうろこの内容で心の中へぐいぐい入ってきました。うんうんとうなずくことがいっぱい。知っていることを増やしていきたい。頑張る気持ちが出てきました。2日間最高でした。いい研修となりました。

